この映画はとても悲しいと思った。最初は広告屋として頑張って働いてきたの主人公がアルツハイマーと診断され、元々順調だった人生はいきなり変わって、受け入れられないのシーンは最も心に残った。旦那~~さん~~がアルツハイマーと診断されたので、奥さんが面倒しなちゃいけない。奥さんが可哀想と思ったけど、理想な夫婦だと思った。どんなに辛くても諦めずに面倒をあげた。もし自分がアルツハイマーと診断された、もしくはその人の家族なら、耐えられないと思った。映画を見た後、主人公がアルツハイマーと診断された原因を考えた。日本では、家庭や仕事からの圧力は重くて、働く時間も長いから、脳の変性を加速した。映画で、旦那さんは常に残業だった。健康より、仕事の方が大事と思った旦那さんは間違っていると考えた。

最後に旦那さんが奥さんを忘れたけど、まだ~~奥さんの~~名前を聞いた時、昔と同じ『いい名前ですね』と言ったシーンがすごく感動した。

